



令和 5 年 1 月 10 日

報道関係 各位

名古屋市立大学病院統括部緑市民病院大学病院化推進室

主幹 松原 憲志 (TEL:080-4919-5114
TEL:080-4919-5873)

名古屋市健康福祉局健康部医療連携推進室

主幹 河合 直樹

名古屋市総務局市立大学部市立大学室

室長 田中 雅隆

(名古屋教育医療記者会・名古屋市政記者クラブと同時発表)

名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院の ロゴマークの採用について

名古屋市立緑市民病院は、令和 5 年 4 月に名古屋市立大学医学部の附属病院として、『名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院』に生まれ変わります。そこで、このことを広く周知し、これまで以上に地域の皆様に親しまれる病院としていくために、「名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院のロゴマーク」の公募を実施しました。緑市民病院大学病院化準備委員会による審査の結果、採用作品を下記のとおり決定いたしましたので、周知くださいますようお願いいたします。

記

1 採用作品



～製作者の意図（原文抜粋）～

「緑」が「みどり」と平仮名に改称されたことを強調するため、「み」から図案。文字の存在感を出し過ぎないように、90度時計回りに回転させて、花のイメージを作った。花は誰にも語りかけ、誰の心も元気にさせる、病院に相応しいモチーフと思う。胸を張ったような凛々しい姿は、医療で地域を支える自信と、ケアシステムの発展を象徴。茎から花にかけ、くると大きく結びを作ったラインは地域の包括や、地域との調和を象徴している。葉は両手を広げ、地域の方々をお迎えしている。花は「診る心」「学ぶ心」とともに、地域医療へ貢献する「ケアの心」という思いを込め、ハートの形にした。

2 製作者 矢部 達也さん（学外応募者：名古屋市昭和区在住）